

「海の民人育成プラン」に係るパブリックコメントの要旨及びこれに対する府の考え方

項目	意見の要旨	府の考え方
新規漁業 就業者の育成	○海の民人として、経験知の集約や伝承、共有が必要。大きな可能性と全体的な視点での人材育成が必要。	<p>□御意見のとおりと考えています。</p> <p>プランに記載しましたとおり、「丹後とり貝」養殖などの府独自の技術や京都の強みである「食」や「観光」についての研修を行い、漁業を目指す若者が夢を持つことができるようにしていきたいと考えております。</p> <p>また、プランの「2 相談・支援制度等の構築」に記載したとおり、学舎修了後も継続して支援を行うよう体制を構築していきたいと考えております。</p>
	○漁業の担い手対策は重要な課題なので関係者の皆さんが一丸となり取り組む必要がある。漁業を目指す若者が夢を持つことができるようお願いする。	
	○漁業者の育成には教育だけではなく、その後の手厚い援助が必要。新規就業者が長く漁業を続けていけるように支援をお願いする。	
	○水産業では個人漁業者の減少が著しい。本プランにより個人漁業への就業希望者の育成が図られることを希望する。	
	○個人漁業者の減少は漁村の衰退を招く要因ともなっているため、手厚い就業支援が必要。たとえば、研修終了後の漁船のリース等の一人前の漁業者として自立できるまでの施策。	
	○高校生等を対象とした漁業に係るインターンシップだけではなく、漁業に限らない海や船に親しむための海洋研修を実施してはどうか。	
	<p>□御指摘を踏まえ、プランの「① 新規就業者の育成」に関する新規施策に「船や海に親しむ海洋研修」を追加します。</p>	

	○漁村以外からの就業者のための生活環境整備もしっかり考えていただきたい。	□生活環境整備については、プランに記載しましたとおり、漁村への定住の橋渡しの一環として実施していきます。
次世代漁業 経営者の育成	○京都の強みである「食」や「観光」を生かしたビジネスを推進すべき。	□プランに記載しましたとおり、「食」や「観光」を生かしたビジネスについての研修を行うこととしており、研修修了後もサポートチームで支援してまいりたいと考えております。
	○経営感覚に優れた漁業者を育成することが必要。生産から消費までを視野に入れ、経営のできる漁業者を育てるべき。	□御意見のとおりと考えています。生産だけではなく、流通・加工や消費までを見据えて、柔軟な考えで漁業の経営ができる漁業者の育成に努めます。